

# 「第7波」急拡大への対応

令和4年7月27日決定  
岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部

## 【直近の感染状況】

現在、今月15日に決定した対策「『第7波』急拡大防止に向けて」により対策を鋭意進めています。第7波は、これまでの感染の波をはるかに上回るスピードで急拡大しており、感染のピークはいまだ見通すことが困難な状況です。【図1】

感染力が強い「BA.5」系統へ7割強置き換わりが進んだこともあり、昨日、1日の新規陽性者数で初めての3千人を超えとなる3,449人が確認されました。人口10万人あたりの新規陽性者数（7日間移動合計）は758.46人となり、第6波のピーク時（333.70人）の2.3倍近い水準となっており、これに連動して自宅療養者数も1万人を超えて増加しています。【図2】

## 【感染急拡大による医療ひっ迫】

こうした感染急拡大により各地で医療ひっ迫が相次ぎ、コロナ医療だけでなく一般医療にも多大な影響を及ぼしています。

- ・先の3連休には、感染急拡大と医療機関の休診が重なり、救急外来を開設している一部の病院に患者が集中し、対応に苦慮したこと
- ・各地の医療機関で、病棟の閉鎖や入退院の制限に追い込まれていること（ある基幹病院では100人規模で医療従事者が欠勤する事態となり、救急患者の受入れ及び複数病棟の入退院が制限される事態となった）
- ・子どもの感染者増加に伴い、小児クリニックにおいて受診予約が取りにくい状況となるとともに、病院の夜間小児救急外来に多数の患者が押し寄せ、小児の入院患者も急増していること
- ・救急搬送困難事案が今月に入り36件となり、コロナ発生後の最高水準となっていること【図3】

このままの状況が続けば、助けられる命が助けられなくなる状況も発生しかねません。

コロナ対策のもう一つの最前線である保健所対応も限界を来しています。7月16日以降、陽性者の同居家族に対する行政検査をハイリスクの方に限定し、療養先を検討するための聞き取り調査もハイリスク以外は大幅に簡素化するなど、業務の縮小・再整理に順次取り組んでいます。また、県庁内からの応援職員190名に加え、市町村のご協力により、新たに保健所に応援職員26名を派遣いただき、総勢415名体制で業務にあたることとしております。

このような対応をとってもなお、感染急拡大が続けば、保健所から陽性者に最初に健康状態などをお聞きする、いわゆる「ファーストコール」に相当な時間がかかることが予想されます。

さらに、医療機関や保健所だけでなく、社会経済活動のいたるところで、マンパワー不足による機能不全が起こる恐れがあります。

## 【今後の対応】

こうした「第7波」急拡大への対応として、「医療・療養・検査体制」では、「保健所の負担軽減」策を検討してまいります。併せて、重症化リスクの高い高齢者施設、障がい者施設における「検査体制の強化」を図ります。

また、高齢者などに加え、医療従事者などへのワクチン4回目接種も開始されます。一方で、若年層への接種率が低迷していることから、感染予防に有効とされている3回目ワクチン接種【図4】にも力を入れるなど、引き続き「ワクチン接種の加速化」に取り組めます。

こうした取組みに加え、強い行動制限を行っていない現状では、県民一人ひとりの「感染防止対策の徹底」へのご理解、ご協力が不可欠です。メリハリのあるマスク着用、手指消毒、密回避、こまめな換気、そして体調不良時は行動ストップといった基本的な感染防止対策の徹底に取り組んでいただきますようお願いいたします。

# 第7波と過去の波との比較 (新規陽性者数(10万人対、7日間移動合計))

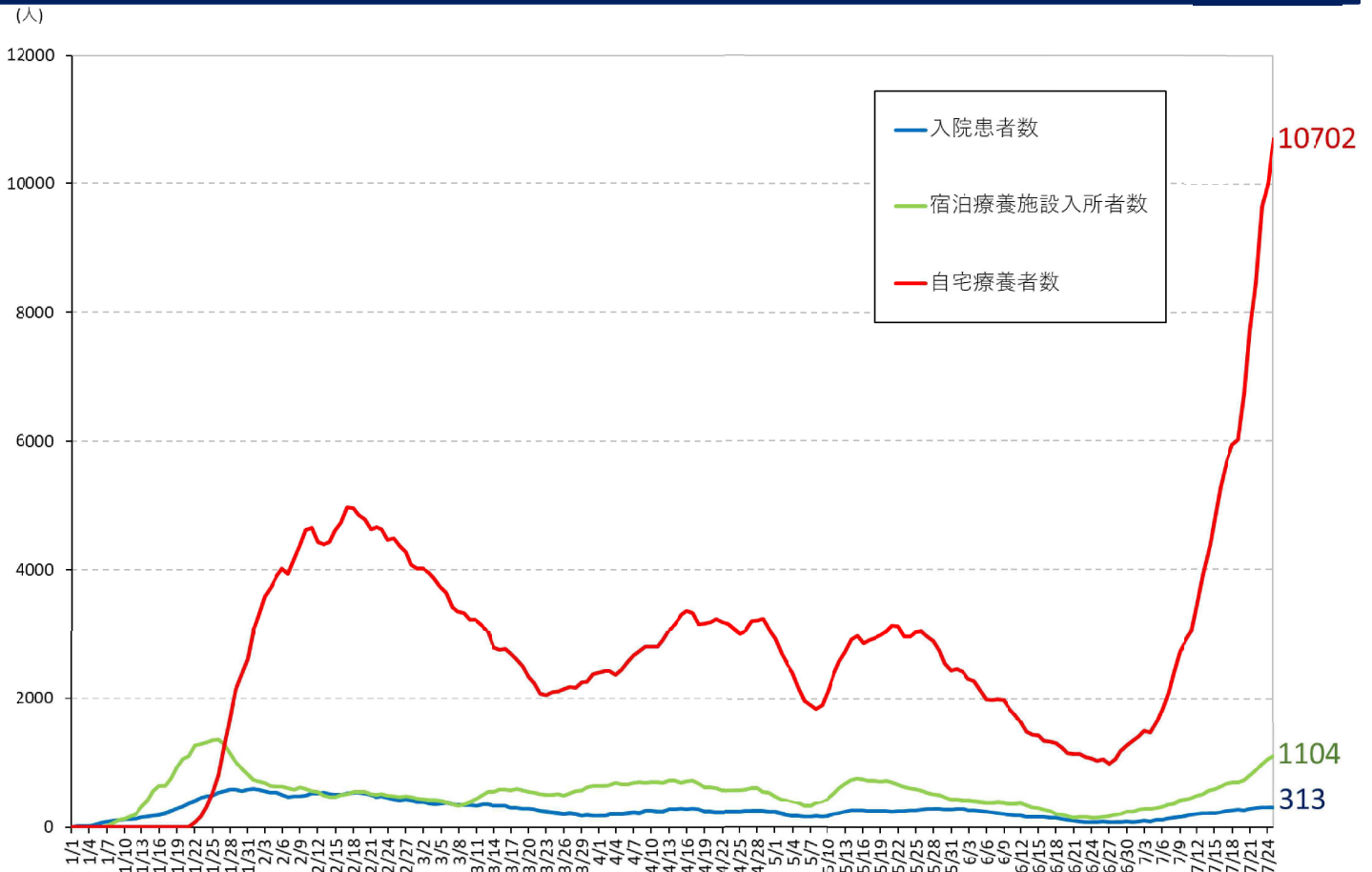
【図1】



※各波において、新規陽性者数(10万人対、7日間移動合計)が初めて5人を上回った日をday1として整理 (ただし、第7波は波の初日をday1とする)

# 療養者数の推移

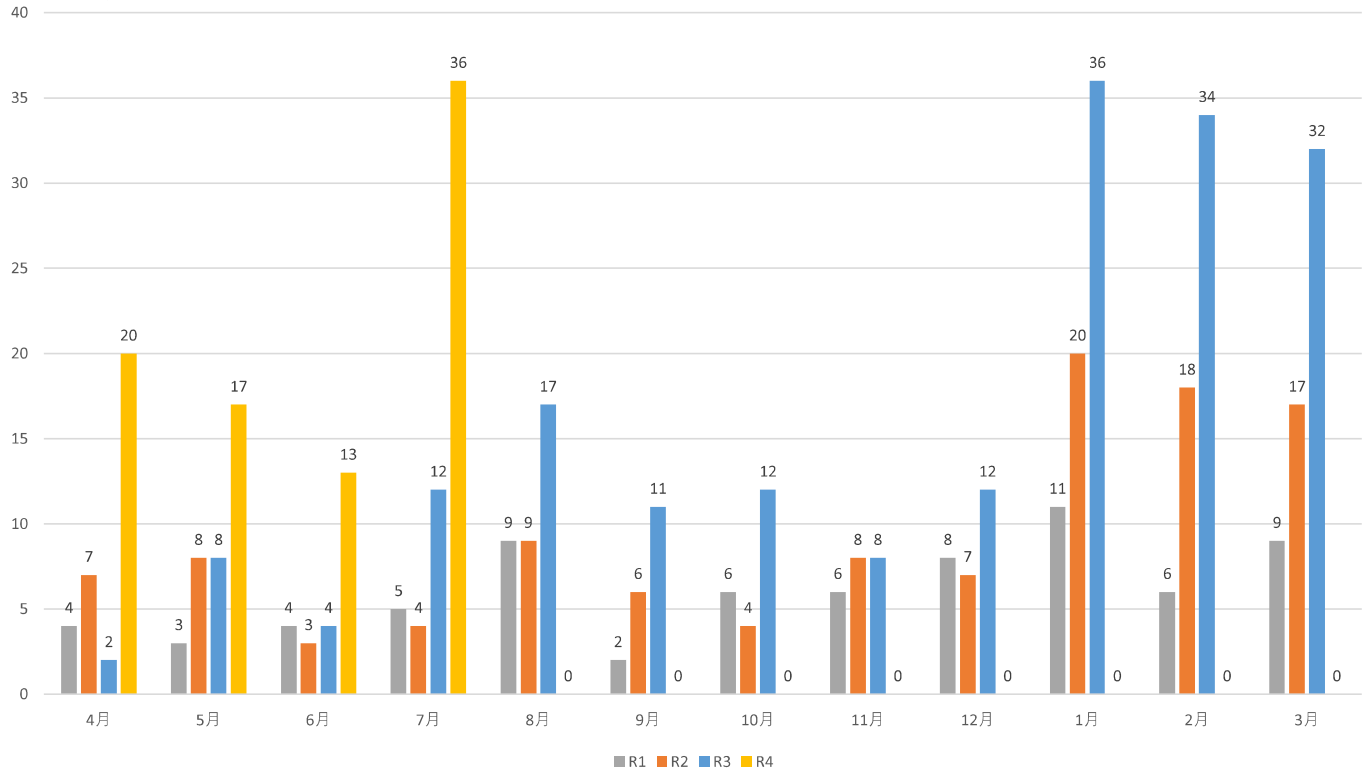
【図2】



### 県内消防本部における搬送困難事案の推移

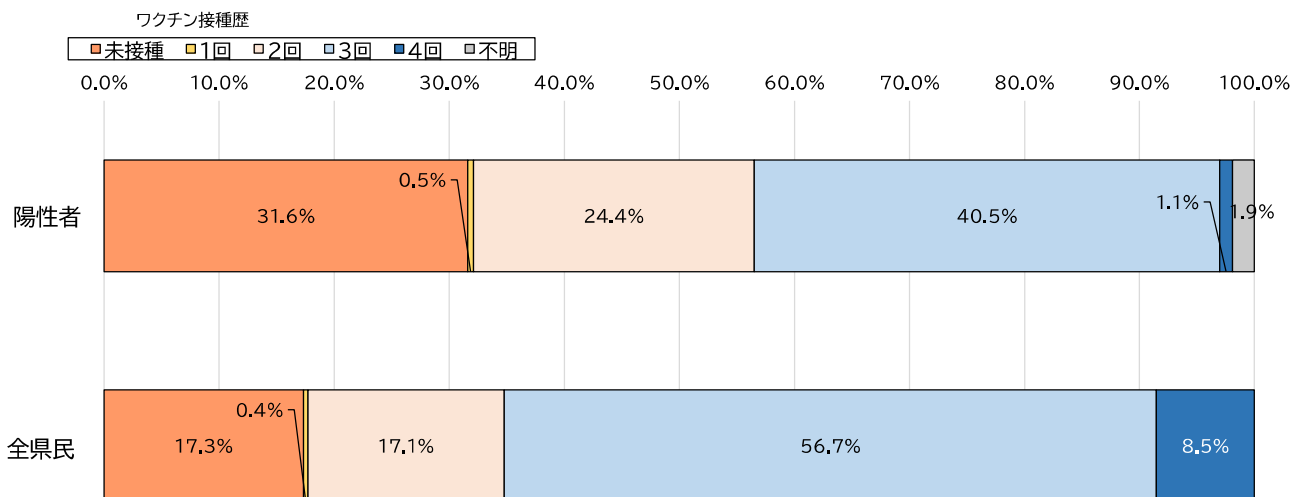
(医療機関への受入照会4回以上、かつ、現場活動時間30分以上の事案)

R4.7.24現在



## 陽性者のワクチン接種状況

- 未接種者及び1回・2回目接種完了者は、接種率に比べ陽性者率が高くなっている。
- 一方で、3回目接種完了者は、接種率に比べ陽性者率が低い。



・陽性者のワクチン接種歴(6/27~7/25公表 25,768例)  
 ・全県民のワクチン接種歴(7月25日時点)

# 対策の追加・見直しのポイント

## 1 医療・療養・検査体制

### (1) 保健所などの負担軽減

#### ○保健所の体制強化

- ・現在の応援職員150名に、さらに応援職員40名、市町村職員26名を投入し、計415名体制に強化

#### ○保健所業務（検査・調査）の縮小・再整理

- ・陽性者への保健所からの最初の連絡に大幅な遅延が生じた場合、以下の対応を実施
  - ・陽性者の同居家族に対する検査を実施しない（症状が出た場合は医療機関を受診）  
※現在はハイリスクの同居家族のみ検査を実施
  - ・ハイリスクでない40歳未満の陽性者に対する聞き取り調査を実施しない  
（療養場所などはショートメッセージ（SMS）で連絡）

#### ○自宅療養者に対する健康観察の簡素化

- ・ハイリスク者以外で健康観察の対象とする者の範囲を、「40歳以上」から「50歳以上」に限定
- ・陽性者への保健所からの最初の連絡に大幅な遅延が生じた場合には、ハイリスク者以外で健康観察の対象とする者の範囲を「65歳以上」にさらに限定

### (2) 医療・療養体制

#### ○外来受診体制の強化

- ・土日祝日の受診希望者が一部の医療機関に集中しないよう、土日祝日に診療を実施していただける医療機関のさらなる増加について関係団体に依頼

#### ○陽性認定を簡素化するシステムの導入準備

- ※有症状者へ抗原定性検査キットを配布して自ら検査していただき、検査結果が陽性であった方に対しては健康フォローアップセンターが対応

### (3) 検査体制の強化

#### ○予防的検査 <高齢者・障がい者福祉施設>

- ・施設従事者に対して、2週間に一度のPCR検査に加え、抗原簡易キットによる週一度の検査も実施
- ・県・市町村職員が施設を直接訪問し、施設ごとに検査受検の計画を策定するよう個別に要請。併せて、事業者関係団体に未申込施設への働きかけを依頼

## 2 ワクチン接種の加速化

### ○若年層の3回目接種及び重症化リスクの高い方などへの4回目接種

- ・岐阜 NEWS VISION（JR岐阜駅前）などを活用した新たな広報を展開
- ・各市町村の接種計画や当面の見通し、接種状況を毎日フォローアップし、取組みが遅れている市町村へのサポートや働きかけを実施
- ・新たに4回目接種の対象に追加された医療従事者などへの接種についても、迅速に完了するよう、接種の状況を進捗管理

## 3 感染防止対策の徹底

### ○移動

- ・混雑した場所や、感染リスクが高い場所への外出・移動回避を要請

### ○観光

- ・8月末までの実施を予定している“ほっと一息、ぎふの旅”キャンペーン（地域ブロック割）については、今後の状況を踏まえて検討

### 【市町村に取り組んでいただく対策】

#### 医療・療養・検査体制

- ・巡回訪問などによる予防的検査受検の徹底

#### ワクチン接種の加速化

- ・ワクチン接種計画に基づき着実に接種するとともに、特に若年層へ接種検討を働きかけ

#### 感染防止対策の徹底

- ・飲食店を巡回訪問するなど、「飲食店換気対策支援補助金」活用の促進
- ・主催イベントの感染対策徹底（必要に応じ中止・延期を検討）
- ・各地域の特定課題に応じた独自策の実施

### 【国への要請項目】

#### 医療・療養・検査体制

- ・検査キットや検査試薬などの安定供給
- ・治療薬の開発支援と安定供給

#### ワクチン接種の加速化

- ・ワクチンの安定供給
- ・ワクチン4回目接種対象者に警察職員・消防職員及び教職員などエッセンシャルワーカーを追加

### 【医療機関に取り組んでいただく対策】

#### 医療・療養・検査体制

- ・土日祝日に診療を実施していただける医療機関のさらなる増加